

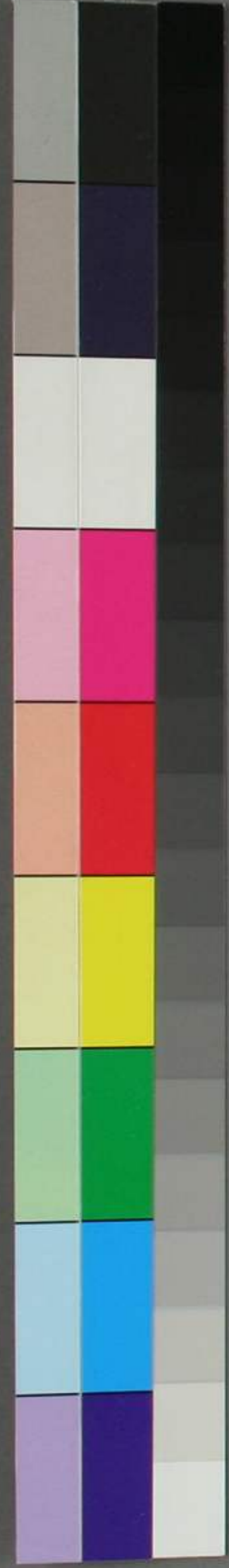
內科秘錄

五

健忘 眩暈 鼻鼈 麻痺 癩癧

不寐 狂邪 崇心 氣病

試
777
5



信
777
5

內科秘錄卷之五

目錄

健忘

眩暈

鼻鼈

麻痺

癩癩

不寐

狂

邪祟

心氣病

Blank lined area for text on the right page.

内科秘録卷之五

水戸 棗軒本間救和卿 著

健忘

喜忘

健忘ハ脳海ノ衰弱シテ精神ノ耗散シタルナリ其人
寒熱ハ勿論何等ノ滯モナク身體強健ニシテ但喜
ンテ忘ル、ノミ故ニ名ツケテ健忘ト云フタニ且
ノ事ヲ忘レ且ニタノ事ヲ忘レ甚シキ者ハ今言タ
ル事ヲ直ニ忘レテ同シ事ヲ幾度モ言ヒ今聞タル
事ヲ直ニ忘レテ幾度モ問ヒ返シテ止マス妻子ヲ



呼ント欲スレ氏名ヲ忘レテ急ニ出テス此證多ク
 ハ中風ノ先兆ニ屬ス或ハ傷寒痢病及ヒ癰疽發背
 等ノ大病ヲ患ヘテ後ニ健忘ヲ患フルコトアリ又人
 老衰スル片ハ無病ニテモ多クハ健忘ヲ免レス
 此證ヲ治スルニハ歸脾湯ヲ第一ノ良藥ト為ス又氣
 虛ニ屬スル者ハ補中益氣湯血虛ヨリ起ル者ハ八
 珍湯若クハ八味腎氣丸ヲ撰用スヘシ

健忘應用方

八味腎氣丸 歸脾湯 八珍湯 補中益氣湯

眩暈

掉眩

目瞑

癩眩

頭旋

頭眩

胃眩

旋暈

眩暈ハ古ヨリ腦海虛也ト説テ即チ腦病ナリ腦ノ自
 ラ病ヲ發スル者アリ或ハ外ヨリ腦ヲ犯シテ起ル

者アリ中風痲證發狂恐怖等ニテ眩運ヲ發スルハ
 腦ノ自ラ病ナリ婦人産後及崩漏帶下吐血衄血腸
 風尿血ノ類ニテ血液虚竭シ虚里及腎間ノ動非常
 ニ悸動シ或ハ過飲過浴諸熱病等ニテ眩運ヲ發ス
 ルハ外ヨリ腦ヲ犯シタルナリ其狀頭目ノ旋廻運
 轉スルヲ覺ヘ漾漾トシテ舟車ノ中ニ坐スルカ如
 ク杳杳トシテ雲烟ノ間ニ在カク脚モ亦蹒跚ト
 シテ數倒レント欲シ須臾モ安靜ナルヲ得ス甚
 シキ者ハ宮室ハ傾覆スルカ如ク几席ハ浮沉スル
 カ如ク又一段甚シキ者ハ遂ニ昏冒シテ色ヲ失シ

人事ヲ省セス或ハ嘔シ或ハ欠シ或ハ冷汗出テ脈
 モ絶スルヲ有リ然レモ須臾ニシテ必ラス蘇活ス
 ルナリ

傷寒論苓桂朮甘湯ノ條ニ起則頭眩ト云タル通り眩
 運ハ卧ス片ハ必ラス止ミ鎮リタリト思ヒ更衣等
 ニ起ツ片ハ復必ラス眩スル者ナリ甚シキ者ニ至
 テハ床蓐ニ卧シテモ眼ヲ合シテモ旋運スル者ナ
 リ
 旋運ヲ發スル毎ニ唇舌ノ麻痺スル者アリ眩運ヲ患
 ルヲ數月ニシテ中風或ハ痲證ヲ發スル者アリ眩

運ノ脳病ニ屬スルヲ明ナリ

船ニ乗テ眩運スルヲ注船ト言ヒ刺絡及瘡瘍等ヲ刺シテ暈倒スルヲ鍼暈ト言ヒ過浴シテ暈倒スルヲ浴暈ト云是等ハ皆一時ノ眩運ニテ藥ヲ服セスシテ自ラ愈ルナリ

卒然トシテ暈倒スル者ハ虚實ヲ論セス回生散參連湯三黄湯等ヲ與フヘシ産後血暈或ハ多血ニシテ上衝シ面目赤ク脈絡怒脹シテ眩スル者ハ三黄湯加辰砂若クハ苓桂朮三黄合方ヲ撰用スヘシ下劑ハ長服スルヲ禁ス若シ前方ヲ與フルヲ數十

日ニ至ラハ苓桂朮甘湯巫神湯如心散ノ類ニ轉方スヘシ亡血シテ悸動高ク眩スル者ニハ腎氣丸連珠飲ハ珍湯ヲ撰用シ鎮悸丸ヲ兼用ト為ス脾胃虚弱面色萎黄悸動眩運スル者ハ歸脾湯ヲ與ヘ寧志膏ヲ兼用トス真武湯モ亦與フヘシ癩證ノ催ニテ眩スル者ハ沉香天麻湯ニ宜シ頭痛眩運シテ嘔吐スル者ハ半夏白朮天麻湯ヲ與フヘシ前方ヲ服シテ嘔吐止サル者ハ半夏瀉心湯若クハ小半夏加茯苓湯ヲ撰用スヘシ

眩運應用方

半夏白朮天麻湯 脾胃 治頭痛頭眩惡心

半夏 陳皮 麥芽 各七分 茯苓 黃芪 人參

澤瀉 蒼朮 天麻 各三分 神麩 白朮 各五分

黃柏 三分 乾薑 二分 生薑

右十四味煎服

巫神湯 叢桂 治婦人血暈發熱或振寒小便不利上氣眩

暈惡心嘔吐及產後諸證婦人百病

茯苓一錢 朮 猪苓 澤瀉 桂枝 各五分

乾薑 四分 黃連 三分 木香 一分

右八味煎服

連珠飲 自準 治諸出血後虛悸眩運唇舌刮白

苓桂朮甘湯合四物湯

回生散 華岡 治產後下血金瘡出血暈倒氣絕者

香附 紫檀 人參 各廿錢 白檀 十二錢 鬱金

甘草 各六分 胡椒 八錢

右七味為末白湯送下

鎮悸丸 自準 治血虛脾胃虛萎黃悸動眩運耳鳴及雀目

等

綠礬 燒取十錢 茯苓 朮 各五錢 桂枝 四錢

甘草 五分

石五味糊丸 白湯送下 自三四分至五分

真武湯 半夏瀉心湯 小半夏加茯苓湯

三黃湯加辰砂 苓桂朮甘合三黃湯 腎氣丸

歸脾湯 如心散 參連湯

此處有若干行非常清晰的文字，但內容模糊，疑似為醫方或論述。

鼻鼈

鼻鼈ハ病源候論ニ出テ又外臺秘要等ニ鼻不聞香臭

氏云ヒ又鼻塞不利氏言フ即チ鼻ノ塞リテ香臭ヲ

辨スルヲ能ハサルナリ感冒ニテ鼻ノ利キカヌハ邪ノ

退クニ隨テ自ラ通スルナリ鼻痔鼻淵等ニテ鼻ノ

塞ルハ本病ヲ治スル氏ハ自ラ愈テ香臭モ聞ヤウ

ニナル者ナリ此病發熱惡寒等ノ證ナク疼痛モ無

ク涕洟モ出テス輕證ノ様ニ見ヘテ治シ難キ者ナ

リ愚按スルニ經ノ鼻ニ入リテ能ク香臭ヲ辨スル

者ヲ洋籍ニ名ツケテ嗅神經ト云フ此神經ノ閉塞

内科秘録 卷五

自注

シタルニテ老衰シタル人ノ聾トナリ又黒障眼ヲ
 患テ育スルト同シ捨置テモ大害ニハ成ラヌ者ナ
 レ氏香臭ヲ聞サレハ如何程ノ滋味ニテモ其本味
 ヲ失スル者ナレハ人人深ク憂ト為ス者ナリ
 此病ヲ治スルノ方ハ辛葦ヲ君主ノ藥トス辛葦清肺
 飲丹溪鼻淵ノ一方等ヲ内服シ蒂辛散ヲ鼻中へ吹
 へシ

鼻鼈應用方

辛葦清肺飲 正宗 治肺熱鼻内癰肉初如榴子日後漸大
 閉塞孔竅氣不宣通者

辛葦 六分

黄芩

山梔

麥門冬

百合

石膏

知母

甘草

杜杷葉

升麻

右十味煎服

鼻淵一方 丹溪

黄芩

蒼朮

半夏

辛葦

細辛

川芎

右九味煎服

蒂辛散 華岡

瓜蒂

治諸頭痛或微毒頭痛及鼻中癰肉

瓜蒂

細辛

各等

右二味研末以吹管入鼻中。

辛荑散 濟生 治鼻內壅塞涕出不已或氣息不通或不聞香臭。

辛荑 細辛 藁本 升麻 川芎 白芷

木通 防風 甘草 羌活 各等分

右十味為末每服二錢食後茶清調服。

療鼻鼈方 千金

甘遂 通草 細辛 附子 炮各一分

右四味搗末吹鼻中差。

又方 同前

以乾薑末吹之又蜜和塞之。

刪繁療鼻塞有清涕出方 外臺

細辛 蜀椒 桂心 芫蕪 吳茱萸 各三分

皂莢 炙屑二分 附子 炮八分

右七味切以苦酒漬一宿以猪脂一斤煎以附子色黃膏成以綿裹內鼻中兼以摩頂。

又療人鼻塞不通皂莢散方 古今錄驗

皂莢 一分炙去皮子 細辛 辛荑 蜀椒 附子 炮各五分

右五味搗末以少許吹鼻中或以綿裹塞之即通。

內科秘錄 卷五 自惟亭藏

シ難シ又痛風ニモ似タル所有リテ古人モ一種ノ
 病ト為シ別ニ病門ヲ立タリ金匱要略ニモ既ニ中
 風歷節篇中ニ痺ヲ組入レテ但臂不遂此為痺ト見
 ヘタリ其病偏臂或ハ兩臂麻痺萎弱シテ羸瘦シ血
 色紅活ナラス或ハ痛テ舉ルヲ能ハス或ハ屈シテ
 伸ルヲ能ハス中風ニモツカス痛風ニモツカス惡
 寒發熱等ノ證ナク飲食モ如常ナレ氏因循トシテ
 永ク愈サル者ナリ又脚ニ發シタルハ多クハ兩脚
 或ハ一脚初メ指ヨリ痺レ漸漸ニ膝マテ上リ或ハ
 萎弱或ハ掣痛瘦テ細クナリ氣血自ラ凝滯シテ色

モ變リ歩行スルヲ能ハス生涯廢人ニナル者アリ
 其病臂ニアル者ハ先ツ桂求附湯桂枝加苓求附湯
 葛根加求附湯及桂枝芍藥知母湯ヲ撰用スヘシ効
 ナキ氏ハ大防風湯獨活寄生湯等ニ宜シ脚ノ治法
 モ以上ノ諸方ヲ撰用シ又六物附子湯腎氣丸ノ類
 モ證ニ隨テ用ユヘシ

人年五十歳前後ニ石或ハ左ノ偏臂掣痛シテ不自由
 ニナリ手ヲ首ヘ舉ケ難ク帶ヲモ結フヲ能ハス至
 極難治ナレ氏微モ腫レス又寒熱等無シ俗ニ之ヲ
 年腕或ハ五十腕ト云フ宣明論ノ著痺ニ似タレ氏

麻痺スルヲ無ク其因自ラ異ナレハ誤テ痺ト為ス
ヘカラス此證必ラス年齢ニ因テ發スルハ人初テ
老境ニ入り筋骨衰弱シテ發スル者ト見ヘタリ藥
餌鍼灸俱ニ効ノ無キ者ナリ然レ氏一二年モ過ル
片ハ自然ニ癒ル者ナリ

麻痺病ノ類極テ多シ皆諸經ノ閉塞ナリ烏頭附子番
木鼈風茄兒莨菪鴉片莽草礬石等ノ毒ニ中ル片ハ
必ラス麻痺ヲ發ス又麻葉モ麻醉セシムルノ毒アリ
リテ伯樂ノ馬ヲ驚クニ其性躁シクシテ賣カヌル
片ハ竊ニ麻葉ニ握許喰シメ麻醉セシメ柔順ナル

ヲ偽テ賣ルヲ有リ曾テ府下近村ノ農家ニテ麻
芽ヲ摘テ食スルニ舉家其毒ニ中リ身體麻痺痿弱
シテ立テ能ハス或ハ笑ヒ或ハ歌ヒ或ハ人ヲ罵詈
シテ發狂ノ如クニナリ明日ニ至テ醒タルヲ有リ
以上ノ諸因ハ假痺ニシテ其毒解スル片ハ痺モ亦
從テ愈ルナリ

打撲損傷等ニテ身體ノ麻痺不遂スルヲ有リ又癘風
脚氣等ニテ麻痺スルヲ有リ此等モ亦別因ナリ徒
ニ痺ト為スヘカラス

麻痺應用方

內科和錄 卷五

〇七

續集

蠲痺湯 濟生 治身體煩疼項背拘急或痛或重舉動艱難及手足冷痺腰腿沉重筋脈無力

當歸 芍藥 黃芪 薑黃 羌活 各一兩半

甘草 半兩

右姜棗水煎

防風湯 同 治血痺皮膚不仁

防風 獨活 當歸 茯苓 蓁朮 芍藥

黃芩 各一兩 桂枝 杏仁 甘草 各半兩

右生薑五片水煎

薏苡仁湯 醫統 治手足流注疼痛麻木不仁難以屈伸

薏苡 當歸 芍藥 桂心 麻黃 各一錢

甘草 五分 蒼朮 二錢

右生薑五片水煎有汗去麻黃有熱去桂

開結舒經湯 回春 治婦人手足麻痺因七情鬱滯經絡也

紫蘊 陳皮 香附 烏藥 川芎 蒼朮

羌活 南星 半夏 當歸 各八分 桂枝

甘草 各四分

右生薑水煎

桂求附湯 桂枝加苓求附湯 葛根加求附湯

桂枝芍藥知母湯 大防風湯 獨活寄生湯

猪癩

癩ハ病卒然トシテ發シ顛仆スル所ヲ取テ名ツケタ
 ルナリ癩ハ人未タ何ノ義ナルヲ詳ニセス行餘
 醫言ニ癩以病間簡慢為呼ト説タレ氏強解ナリ愚
 按スルニ史記酷吏傳ニ曰濟南閻氏宗人三百餘家
 註ニ漢書音義ヲ引テ曰閻音間小兒癩病也トアリ
 説文ニ癩戴目也ト見ユ戴目ハ即チ癩ノ主證ナレ
 ハ之ヲ取テ癩ト名ツケタルナルヘシ其因多クハ
 父母ノ遺孽ヲ受ケ血脈ヲ引テ發スル者ナリ譬ハ
 父母癩ヲ患ル氏ハ其子孫必ラス之ヲ患ヒ其子孫

ノ親族ヤテモ傳ルル有リ癩ハ腦病ニシテ精神ニ
 關係スルハ憂悶思慮恐怖驚駭等過度ニ至ル氏ハ
 亦之ヲ發スル者ナリ或ハ偏正頭痛結毒頭痛頭面
 ノ打撲損傷膿耳流注疔瘡顴骨疽或ハ妄ニ打テ上
 部ノ齒牙ヲ抜キ或ハ疫邪上攻等ニテ頭腦ヲ侵犯
 スル氏ハ亦能癩ヲ發スルヲ有リ
 凡ソ人身ノ疾病ニ於ル其官能ノ多キ處ニ發スル氏
 ハ其證候多ク其官能ノ少キ處ニ發スル氏ハ其證
 候少シ耳ハ其疾少ク眼ハ其病多キニテ知ルヘシ
 頭腦ハ精神ノ舍ル所ニシテ官能ノ尤多キ處ナレ

八癩ノ證候多端ニシテ千態萬狀變化無極ニ至ル
故ニ五癩八癩十二癩二十五癩等ノ目アリ皆病狀
ニ本ツキテ名ツケタルナリ之ヲ統ルニ陽癩陰癩
ノ二證ニ過キス

陽癩ハ即チ急證ノ一ニテ卒然トシテ暈倒シ人事ヲ
省ニス四肢搐搦瘈瘲シテ看持ノ者ノ押へ切レヌ
程ニ躁擾シ口眼喎僻ニナリ鼓頤股栗シテ一身中
處トシテ揺カサルハ無シ眼ハ直視上竄シ口ハ動
クウチニ牙關緊急シ水藥俱ニ入ラス咽喉ハ閣閣
トシテ聲ヲ生シ涎潮壅盛ニシテ氣息高ク涎沫ヲ

吐キ或ハ頑痰ヲ吐シ脈沉微四肢微冷スレ氏須臾
ニシテ發熱汗出テ脈ハ浮大ニナリ搐搦モ止テ喜
テ欠シ但睡眠スルカ如クニナリ高ク喚テ纔ニ應
スルハ是醒ント欲スルノ候ナリ一旦醒テ復發シ
幾回モ發スル者アリ

此病一旦愈テモ必ラス再發シテ全治スルコト無シ或
ハ一月ニ二三度發スル者アリ或ハ一年ニ一二度
發スル者アリ屢發スル者ハ其證輕ク稀ニ發スル
者ハ其證重シ心配等ニテ發スルハ勿論ノコト圍碁
將碁等ニ對シ苦思シテ發スル者アリ或ハ眠ル寸

ハ必ラス發スル者アリ
 或ハ癩ニテ腋下ニ纍纍ト核ヲ結ヒ大サ梅子ノ如ク
 ニシテ痛モ無ク色モ變セス長ク消散セサル者ア
 リ世人發狂ノ者ヲ狐ノ馮ソキタルヤウニ心得狐ノ凝
 ヲヒシキ出スト云フハ此結核ノ一ナルヘシ
 陰癩ハ即チ緩證ノ一ニテ身體ノ一部ニ但一證ヲ發
 シテ諸證備ハラス或ハ諸證備ハルト雖モ緩慢ナ
 ル者是ナリ一臂ニ搐搦ヲ發シ一旦瘥テ後屈シテ
 伸ヒス食ニ對シテ箸ヲ持フモナラヌ者アリ平素
 無病ノ者卒然トシテ口眼喎斜ニナリ半面麻痺シ

微ク色ヲ變シ偏眼大ニ開キ淚出テ口モ能ク閉ル
 一能ハスシテ飲食ヲ溢シ涎ヲ流スモノアリ俗ニ
 之ヲ神風ニ中リタルト云ヒ或ハ面中ト稱ス輕證
 ナレモ治シ難シ其時直ニ愈サレハ終身ノ沉痾ト
 ナルモノナリ或ハ舌麻木シテ五味ヲ辨セス言語
 モ蹇澁シ其病漸漸ニ咽喉へ波及シテ飲食嚥下ノ
 機ヲ失シ何ヲ食シテモ必ラス咽テ納ラス遂ニ絶
 食ニ至リテ死スル一アリ或ハ首ノ自ラ顫動シテ
 止マス若シクハ一手自ラ動揺シテ膝頭ヲ摩挲旋
 廻シテ止マサル者アリ自ラ之ヲ禁セント欲スレ

氏禁スルヲ能ハス之ヲ名ツケテ舞蹈病ト云フ或
ハ病發作スル時ハ他證ナク但異聲ヲ發スルヲ鳥
鳴獸吼ノ如キ者アリ因テ雞癩馬癩牛癩羊癩猪癩
等ノ名ヲ設ケタル者ナルヘシ一兒年十四歲毎日
黄昏ニ至ル寸ハ神思悒鬱トシテ床蓐ニ就キ呼フ
一狗吠ノ如シ自ラ禁セント欲スレ氏須臾モ止
能ハス其初稀疎トシテ起リ漸次ニ急促ニナリ一
時許ニシテ又稀疎ニナリテ止ム牆ヲ隔テ、之ヲ
聞寸ハ真犬ナルヲ疑フ如此幾ト年所ニシテ愈
ヘス沉香天麻湯ヲ與フルヲ半年許ニシテ全治ス

一農夫年六十歲間居獨處ヲ好シ黙然トシテ樂マ
ス毎日夜半ニ至ル氏ハ必ラス寤テ心下逆滿ヲ覺
ヘ卒然トシテ高ク呼フ雉鳴ノ如ク自ラ之ヲ禁セ
ント欲スレ氏禁スルヲ能ハス其聲高クシテ遠近
ニ達ス呼フ一時許ニシテ自ラ止ミ逆滿モ亦從テ
消ス是亦沉香天麻湯ヲ與ヘテ愈タリ或ハ又日夜
噎氣出テ、久ク止マス其聲高クシテ常ノ噎氣ト
異ル者アリ因テ考ルニ雞鳴狗吠ノ如ク聲ヲ發シ
或ハ噎氣ノ高ク出ルモ同是非常ノ氣逆ナルヘシ
或ハ筋惕肉瞤スルヲ忽チ面目ニアリ忽チ四肢ニ

アリ遊走シテ定マラス初テ貴人ノ前ニ出ニ若シ
クハ生客ニ對シテ聊心配スル寸ハ殊ニ甚キ者ア
リ或ハ悸動常ニ高クシテ少シノ事ニモ驚キ易ク
又眩暈シ易ク眩暈スレハ唇痺レ又喜テ欠スル者
アリ或ハ不食ニナリテ一切ノ穀類ヲ食セス甘藷
膠飴砂糖ノ類一撮ヲ一日ノ食糧ト爲シ外ニハ何
モ食セサルヲ半年或ハ一年ニ至レ氏曾テ飢ヘス
又羸瘦セスシテ肥健ナル者アリ陰癩ノ如キハ異
態奇狀殊ニ多クシテ枚舉ニ遑アラス然レ氏其病
源ヲ明辨シテ一癩證ナルヲ知ル氏ハ療治ニ臨

テ大過ナカルヘシ

癩癩數發シ久シキ氏ハ精神耗散シテ小兒ノ如ク痴
人ノ如ク親疎ヲモ分タス菽麥ヲモ辨セヌヤウニ
ナリテ横夭スル者アリ或ハ癩愈サルモ幸ニ死ヲ
免レ四五十歳ニ及氏ハ病熱自ラ折テ緩慢ニナル
者ナリ

治法卒倒シテ牙關緊急四肢搐搦シ人事ヲ省セサル
者ハ既ニ死地ニ墜タルヤウニ見ユレ氏脈ハ胃氣
ヲ存シテ必ラス回生スル者ナリ先ツ三黃湯若シ
クハ參連湯或ハ加熊膽若シクハ回生散等ヲ與フ

口噤シテ藥汁ノ入カタキ者ハ鼻ヨリ注入スヘシ
 凡不省人事ノ病人ハ咽喉モ知覺ヲ失シ會厭ニテ
 氣道ヲ蓋ハス飲食誤テ肺中ニ入り卒死スル有
 レハ藥汁モ徐徐ニ斟酌シテ用フヘシ喜欠シテ精
 神較回復シ發熱汗出脈浮數ナル者ハ抑肝散或ハ
 加羚羊角ニ宜シ發熱シテ虛里悸動高ク精神較復
 スルト雖モ尚恍惚トシテ或ハ驚キ或ハ怯レ或ハ
 妄語或ハ不寐或ハ癩瘖未タ止マサル者ハ三黃湯
 加辰砂柴胡加龍骨牡蠣湯大柴胡湯加羚羊角侯氏
 黑散羚羊角飲等ヲ撰用スヘシ

卒然トシテ口眼喎僻ニナリ微腫シテ色ヲ變スル者
 ハ亂刺シテ敗血ヲ去リ或ハ刺絡シ涼膈散加石膏
 ヲ與フヘシ唯喎斜スルノミニテ腫サル者ハ羚羊
 角ニ宜シ熱已ニ解シ眩運未タ止マス心下痞鞭喜
 嘔シテ涎沫ヲ吐キ或ハ噎氣ノ多ク出ル者ハ半夏
 瀉心湯加茯苓神驗有リ虛里及臍旁ノ悸動尤ク逆
 氣屢心下ヲ衝テ死セント欲スル者ハ苓桂朮甘湯
 或ハ三黃湯合用茯苓桂枝甘草大棗湯奔豚湯等ヲ
 撰用スヘシ凡癩病寒涼鎮墜ノ藥ヲ用ヒテ後氣逆
 眩暈頸項強リ四肢痠癢或ハ麻木或ハ不遂或ハ癱

急或ハ精神恍惚或ハ憂鬱或ハ傷悲或ハ喜笑等ノ
證荏苒トシテ久シク愈サル者ハ沉香天麻湯ニ宜
シ癩ノ症候ナク但日夜喜笑シテ止マサル者アリ
是モ亦癩ナリ甘麥大棗湯ニ宜シ

癩癩應用方

清心温膽湯醫鑑 平肝解鬱清火化痰除眩暈諸癩之疾

麥冬 川芎 人參 遠志各六分 當歸 白朮

白芍 茯苓 陳皮 半夏 枳實 竹茹

菖蒲 香附 黃連各一錢 甘草四分

石水煎 ○回春名清心抑膽湯

釣藤湯 錦囊 治諸癩

橘紅 釣藤 膽星 天麻 姜蚕 人參

遠志 犀角 石菖蒲

加燈心水煎臨服加牛黃珍珠

牛黃清心丸 局方 治心氣不足神志不定驚恐怕怖悲憂

慘感虛煩少睡喜怒無時或發狂癩神情昏亂

黃芩 蒲黃 羚羊角 麝香 龍腦各一兩

犀角二兩 牛黃一兩二錢 雄黃八分

金箔一百張內五張為衣

右為末煉蜜為丸每兩作一九用金箔為衣每服一九

温水化下。小兒驚癇。酌量多少。竹瀝湯下。

柴胡加龍骨牡蠣湯 大柴胡湯加羚羊角

半夏瀉心湯加茯苓 苓桂求甘湯 三黃湯

茯苓桂枝甘草大棗湯 奔豚湯 甘麥大棗湯

沉香天麻湯 涼膈散加石膏 回生散 參連湯

羚羊飲

不寐

不寐ハ腦病ニシテ癩ノ一證ナリ其初發ハ惟臆病ニ

ナリテ萬事ヲ心配シ凡ソ産業疾病及世人ニ應接

等ノ憂ヒマシキヲ憂ヒ恐ル、ニ足ラサルヲ

恐レ思慮反覆シテ日夜止マス精神漸ク耗散シテ

寐ルヲ得ス寐ラレヌヘ愈思慮ヲ費シ遂ニ癩

證盡ク備ハリテ多クハ狂ヲ發スル者ナリ

其因精神耗散津液枯竭等ヨリ起ル者ハ酸棗仁湯歸

脾湯寧志膏等ヲ撰用スヘシ脈弦數ニシテ虛里ノ

悸動高キ者ハ柴胡加龍骨牡蠣湯柴胡桂枝乾薑湯

桂枝加龍骨牡蠣湯ヲ撰用ス心下痞鞭スル者ハ半
 夏瀉心湯加茯苓神驗アリ一時ノ權道ナレ氏阿芙
 蓉液ヲ毎夜與ヘテ熟睡ヲ得ル氏ハ不寐ノ僻ヲ忘
 レテ自ラ睡ルヤウニナル者アリ又吐酒石六釐ヲ
 鹽湯ニテ服サシメ快吐ヲ得レハ神經一變シテ遂
 ニ能ク寐ルヤウニナル者歎カラス
 又不寐ノ證ニ反シテ喜テ睡ル者アリ苟モ獨坐スル
 氏ハ必ラス睡リ傍人ニ喚覺サレテモ又乍チ睡リ
 後ニハ飲食ニ臨ミ客ニ對シテモ坐睡スルニ至ル
 者アリ是モ腦病ニテ不寐ト同因ナリ終ニハ中風

ヲ發スル者ナリ早ク歸脾湯ヲ服シテ預防スヘシ
 小兒十三四歳ノ間睡中卒然トシテ起キ或ハ走り發
 狂ノ如ク或ハ邪祟ノ如クニ見ユル者アリ俗ニ寐
 惚ホッルト云フ甚シキ者ハ毎夜發シテ始末ニ困コトル者
 ナリ是モ腦病ニテ癩ニ屬ス柴胡加龍骨牡蠣湯奇
 驗アリ

不寐應用方

- 柴胡加龍骨牡蠣湯 桂枝加龍骨牡蠣湯
- 酸棗仁湯 柴胡桂枝乾薑湯 半夏瀉心湯加茯苓
- 歸脾湯 寧志膏 阿芙蓉液 吐酒石

神效心療

レ氏稀ニハ死スルコト有り其脈證ヲ熟察シテ預メ
死生ヲ斷ルヘシ

急發ノ者ハ名ツケテ陽狂ト云フ最初ハ思慮ヲ費ス
コト過度ニシテ日夜眠ルコトヲ得ス遂ニ精神錯亂シ
テ漫ニ走り牆ヲ踰ヘ屋ニ上リ常ニ為スコト能ハサ
ル事ヲ行ヒ身體輕便自在ニシテ走獸飛鳥ノ如ク
ニナリ膂力常ニ倍シテ兩三人ニテハ之ヲ制スル
コト能ハス人ヲ見ル毎ニ罵詈シテ親疎ヲ避ケス人
強テ之ヲ制スル氏ハ或ハ唾シ或ハ衣ヲ咬テ風犬
ノ如クニナリ或ハ笑ヒ或ハ歌ヒ或ハ漫ニ恐怖シ

テ捕手ノ者ノ家ヲ圍タル様ニ思ヒ或ハ人ノ竊ニ
來テ已ヲ殺サシコトヲ疑ヒ須臾モ安静ナラス飲食
常ニ倍シテ放飯流啜スル者アリ藥ハ總テ毒ト為
シテ飲マヌ者多シ強テ與フル氏ハ飲食ヲモ毒ア
リト為シ口ヲ噤シテ微シモ食セサル者アリ眼光
リテ稜角ヲ生シ舌上白苔或ハ黑苔ニナリ乾燥シ
テ煩渴スル者アリ虚里ノ悸動高ク脈モ弦數ニナ
リ大便ハ秘結シ小便モ遠クナリテ二三日ハ出ヌ
コトアリ然レ氏小便閉ニ非レハ小腹急脹等ノ候ナ
シ凡ソ悸動高クシテ氣ノ上衝スル病人ハ小便遠

ク少キ者ナリ然ル所以ハ一身中ノ水盡ク氣ニ化
 シテ表散スルユヘ膀胱ヘハ至ラスシテ小便ノ少
 キナリ紫胡桂枝乾薑湯紫胡加龍骨牡蠣湯ノ條下
 ニ腫モ無キ證ニ小便不利ト云フテ牡蠣龍骨鉛丹
 等ノ入タル鎮隆ノ劑ヲ用ヒタルハ畢竟是モ上衝
 シテ小便ノ不利シタルナルヘシ今舉ル所ノ諸證
 ハ即チ陽狂ナリ治方ハ先ツ吐劑ヲ與フヘシ吐酒
 石ナレハ五六釐瓜蒂ナレハ五六分ヲ與ヘ快吐ス
 ル氏ハ乍チ睡ヲ催シテ静ニナル者ナリ又草兵丸
 ニテ下シ或ハ阿芙蓉液五六十滴ヲ用ヒ或ハ抑肝

散ヘ風茹兒三分ヲ加ヘ一日ニ二三貼モ與フル氏
 ハ必ラス昏睡ス是等ノ術ハ皆權道ナレ氏睡僻ノ
 付テ自ラ鎮ルコト有リ服藥ハ紫胡加龍骨牡蠣湯三
 黄湯加辰砂大紫胡湯黃連解毒湯等ヲ撰用スヘシ
 渴スル者ハ參連白虎湯ニ宜シ又灌水ニテ自ラ愈
 ル者アリ然レ氏過度ニ至ル氏ハ身體冰冷ニナリ
 脈絶シテ遂ニ死スルコト有リ狂躁甚シキ時ハ家人
 モ深ク之ヲ惡ミ一旦ノ怒ニテ骨肉ノ親ヲモ忘レ
 遂ニ此過ヲ致スコト有リ慎ムヘキコトナリ狂人ノ井
 ニ投シ或ハ河ニ溺レテ後ニ病ノ愈ルハ即チ自然

ノ灌水ナリ
 緩發ノ者即チ陰狂ニテ其證閑居獨處ヲ好ミ父母妻
 孥ヲモ近ツクルヲ欲セス惟黙黙トシテ何事ヲカ
 考ヘ心氣不定ニナリ言語錯亂シ又臆病ニナリテ
 外ヨリ人來テ或ハ捕ヘ或ハ殺サンコヲ恐レ微シ
 ノ物音ニ驚キ或ハ躍リ或ハ走リ又人ノ已カ短ヲ
 誹謗スルコヲ慮リ身ノ置處モ無キヤウニ思ヒ自
 ラ迫リテ遂ニ咽ヲ刺シ腹ヲ截ルニ至ルコト有リ凡
 ソ狂ハ頭腦ハ勿論全體ノ神經モ一變シテ知覺ノ
 平生ニ異ナルモノト見ヘタリ大食スレ氏速ニ消

化シテ傷食ノ患ナク又食ハサルモ饑ヘスシテ身
 體ノ常ニ豊満ナル者アリ又霜雪ノ中ニ起居シテ
 モ寒威ヲ知ラス人若シ被服ヲ與レハ忽チ擘キ棄
 テ、多クハ髀ニナリテ居ル者ナリ
 陰狂ハ吐下ノニ法及灌水等ノ攻撃ヲ禁ス思慮及覆
 シテ止マサル者ハ半夏瀉心湯加茯苓神驗アリ驚
 怖甚シキ者ニハ柴胡加龍骨牡蠣湯ヲ與ヘ寧志膏
 ヲ兼用トス毎夜眼氣清朗ニシテ須臾モ睡ルコト能
 ハサルハ酸棗仁湯温膽湯竹茹温膽湯加減温膽湯
 ヲ撰用ス又阿芙蓉液ヲ兼用スヘシ

婦人ノ男子ヲ戀慕シテ意ヲ達スルコト能ハス卒ニ狂
 ヲ發スルコト有リ名ツケテ華風ト云ヒ又華癩ト云
 フ其證ノ陰陽ニ從テ前件ノ治法ヲ撰用スヘシ又
 妊娠中或ハ産後ニ狂ヲ發スルコト有リ是モ治法ハ
 前方ニテ足レリトスレ氏血熱ノ解セサル者ハ加
 味逍遙散ニ宜シ惡露未盡モノニハ桃核承氣湯申
 字湯加大黃ヲ撰用スヘシ或ハ喜テ悲傷シ或ハ笑
 ヒ或ハ歌フ者ハ甘麥大棗湯ニ宜シ
 狂ハ即チ癩ノ變證ナレハ吾門ニテハ其證ノ陰陽ヲ
 論セス羚羊飲ヲ專用ス灸熯モ一手段ナレハ宜ク

試ムヘシ第一長強三里鬼哭ノ穴ヲ灸シテ効ヲ取
 タルコト少ナカラス
 世ニ賣買スル狂ノ藥ハ風茄子ニテ麻酔セシムルト
 瓜蒂ニテ吐セシムルノ二方ニ過キス風茄子劑ヲ
 檢査スルニ一貼へ入タル分量一錢或ハ一錢半モ
 有ル様ニ見ユ夫ヲ毎日一貼ツ、服スルニ大害ナ
 シ是ニ因テ考ルニ風茄子ヲ用ユルコト一錢強弱ニ
 テハ死セヌ者ト知ルヘシ然レ氏西洋ノ本草書ヲ
 閱スルニ風茄兒ノ毒ニ中リ昏睡シテ死スルコトヲ
 載セ又世ノ麻藥ヲ用ユルモノ偽方ヲ試テ人ヲ殺

セシ者數ナカラサレハ常ニ分量ヲ慎ミ戒ムヘシ
狂應用方

温膽湯 三因 治心膽虛怯不得眠

半夏 竹茹 枳實 各二兩 橘皮 三兩 生薑 四兩

茯苓 三兩 大棗 甘草 各一兩

右八味水煎服

加減温膽湯 高階 治陰狂氣血衰損者

竹茹 枳實 橘皮 半夏 茯苓 酸棗

黃連 遠志 菖蒲 丹砂 甘草 生薑

右十二味水煎服

二陰煎 景岳 治心經有熱水不制火驚狂失志多言多笑

或瘍疹煩熱失血等證

生地 麥冬 各三錢 棗仁 二錢 甘草 一錢

玄參 一錢 黃連 二錢 茯苓 木通 各一錢

右灯心草根或竹葉亦可煎服

柴胡加龍骨牡蠣湯 大柴胡湯 三黃湯

半夏瀉心湯加茯苓 酸棗仁湯 桃核承氣湯

甘麥大棗湯 竹茹温膽湯 參連白虎湯

加味道遙散 羚羊飲 黃連解毒湯

柳肝散加風茄兒 甲字湯加大黃 寧志膏

阿芙蓉液 草兵丸 吐酒石 瓜蒂

灸穴

長強 取骨端伏地取之

三里 在膝頭骨節下一夫附脛骨外是

鬼哭 入門曰以患人兩手大指相並縛定用火灸之則患者兩甲角及甲後肉凹處騎縫着火灸之則患者

哀告我自去為効

邪祟問良言 事 言 常 二 論 之 新

邪祟ハ又魅崇氏云フ即チ物附ノナリ左傳昭公二年

晉侯ノ疾病ヲ占フニト人ノ曰實沉臺駘為崇ト云

ヘリ實沉臺駘ハ二神ノ名ナリ然レハ邪祟ノ説モ

古ク有リナリ其因鬼神ハ勿論寃死生怨狐狸犬馬

猫蛇ノ類モ皆能ク崇ヲ為スト云ヒ傳フ就中狐憑

ハ必有ノモノニナリテ婦人小兒タモ常ニ口實ト

ナス狐憑ノ名ハ行餘醫言ニ出ツ然レ氏其出典ヲ

詳ニヤス左傳昭公八年石言于晉魏榆晉侯問於師曠曰

石何故言對曰石不能言或憑焉トアレハ太仲ノ新

ニ名ツケタルニテモ杜撰ニ非ス金匱ニ載スル所
ノ狐惑ノ目ハ字面ニテハ狐憑ノ様ニ思ハル、ユ
ヘ醫學入門ニ狐惑ヲ狐憑ト為シテ説タルハ大十
ル謬ナリ狐惑ハ牙疳下疳ノ類ニシテ邪祟ト迺ニ
殊ナリ世ニ狐憑ト稱スル證ハ卒然トシテ精神錯
亂シ或ハ跳リ或ハ走り漫ニ左右ヲ回顧シ人ニ逐
ハル、カ如ク又捕ハレントスルカ如ク或ハ驚キ
或ハ怖レ惕惕トシテ須臾モ安セス或ハ怒テ罵詈
スル、親疎ヲ避ケス或ハ歌ヒ或ハ失笑シテ止マ
ス曾テ聞見セサル所ノ事ヲ言ヒ常ニ能セサル所

ノ事ヲ能シ百端怪異ニ見ユルユヘ看侍ノモノ初
テ狐憑ナルヲ疑ヒ赤豆飯油燂ノ類ヲ與フルニ
喜テ食シ患者自ラ狐ノ心地ニナリテ飲食ヲ具ス
レハ著ヲ棄テ、口ニテ食シ起居進退狐ノ身振ヲ
スル者ナリ因テ巫祝ニ託シテ之ヲ責レハ立トコ
口ニ去ルト云ヒ何處ノ狐ナリト問ヘハ某ノ地ノ
狐某ナリト答フルニ至ル腋下ヘ手ヲ觸ル、一ヲ
嫌ヒ試ニ觸ル、一ハ卒然トシテ跳リ手足擾亂色
ヲ變シ聲ヲ發ス又腋下ニ結核二三枚ヲ生スル者
アリ此證迅速ニ發スレ氏吐方ヲ行ヒ下劑ヲ施セ

ハ速ニ治スル者多シ

愚案スルニ狐憑ハ狂癩ノ變證ニシテ所謂卒狂是ナリ決シテ狐狸ノ人身ニ憑ルニ非ス得効方ニ狐魅ヲ灸スルニ狐鳴シテ即チ瘥ト云ヒ又邪祟ヲ灸スルニ鬼自ラ姓名ヲ道テ去ラント云ヒト云徒ニ此等ノ言ヲ信シ狐ヲ靈獸ト為シ實ニ人身ニ入ル者ト為シテ人人唱和シ遂ニ舉世信用スルヤウニ成タルナルヘシ本朝食鑑ニ飯繩ヲ使フト云ヒ又狐精ノ皮膚ノ間ニ入テ瘤塊ノ狀ヲ成ス者ヲ強ク挫出シ或ハ鍼ヲ以テ刺シ或ハ刀ヲ以テ切ルノ法

アリ狐憑ノ說古今確定シテ萬喙一聲復異議ヲ為スモノナシ予獨リ之ヲ疑フ狐體ハ頗ル大ニシテ且ツ四足ヲ具ル者ナレハ人身ニ於テ入ルヘキノ門ナク又居ヘキノ窟ナシ狐ノ精神若シ其體ヲ離レテ人身ニ入ル者ナラハ狐體ハ無精神ニナリテ山野ニ斃レアルヘキ筈ナレ氏未曾テ之ヲ見ル者アラス狐ヲ靈獸ト心得ルハ大ナル誤ナリ北總佐倉ノ城下住村ニ稻荷屋藤介トイフ者アリ狐ヲ捕テ産業トス其術預ノ縹ヲ設ケ夜沉醉ニ乘シテ枯魚ノ類ヲ袂ニ入レ山林ヲ徘徊シ狐ニ逢着スル氏

ハ詐テ狐魅ノ態ヲ為シ迤ニ狐ヲ誘引シテ罽中ニ
 陷イレ毎夜獲ル所兩三狐ニ至ルト云フ年来獲ル
 所幾千百ナルヲ知ラサルヘシ一狐モ藤介ヲ惑
 ハン又憑依シテ仇ヲ報スルヲ得ス狐性ノ至愚
 ナルヲ知ルヘシ至愚ノ者ナレハ人ヲ惑シ或ハ人
 ニ憑テハ必ス無トスヘシ嘗テ狐憑ノヲ洋學者
 數家ニ質問スルニ洋籍ニ狐ノ人ヲ惑シ人ニ憑テ
 ラ説カス且ツ窮理ヲ以テ之ヲ考ルニ狐憑鬼崇ノ
 類ハ實ニ精神ノ疾病ニテ決シテ鬼邪狐狸ノ憑依
 スルニ非スト云ヘリ醫學入門ニ曰視聽言動俱妄

者謂之邪祟甚則能言平生未見聞事及五色神鬼此
 乃氣血虛極神光不足或挾痰火非真有妖邪鬼崇也
 又醫學正傳ニ曰人見五色非常之鬼皆自己精神不
 守神光不完故耳實非外邪所侮乃元氣極虛之候也
 ト以上ノ諸説ヲ參考スルニ狐憑ハ心疾ニシテ即
 チ狂癩ノ變證ナルヲ彰然タリ古ヨリ狐ハ人ヲ惑
 ハスモノ人ニ憑ル者ト人人常ニ心得テ居ルコヘ
 病人狂癩ヲ發スルニ當テ傍ヨリ狐憑トナシテ赤
 豆飯等ヲ進ムレハ病人自ラ狐ニ憑レタリト思ヒ
 狐ノ状態ヲ為スナリ嘗テ狐憑ヲ患フル者アリ看

侍ノモノ此地^{合テ}貉ノ多キ地ナレハ貉ノ憑タルナル
 ヘシト云フニ病人乍チ貉態ヲ為シテ^{合テ}貉憑ニ變シ
 タルト有リ又曾テ馬夫ノ狐憑ヲ患フル者アリ其
 妻ノ曰ク良以馬ヲ逐フト常ニ嚴酷ニシテ或ハ叱
 シ或ハ鞭ト太甚シケレハ馬ノ祟リタルナルヘシ
 ト云フニ乍チ馬態ヲ為シテ馬憑ニ變シタルト有
 リ是皆精神錯亂ノ致ス所ナレハ別ニ邪祟ノ治法
 ヲ設ケス狂癩ノ治法ヲ撰用シテ足レリ
 性^{オク}怯^ウノモノ誤テ稻荷ノ符ヲ汚シ或ハ誤テ狐窟ヲ穿
 チ惕然トシテ大ニ驚キ大ニ恐レ鬼祟狐憑ノ災ア

ラントヲ憂ヒ後悔反覆シテ止マス遂ニ癩ヲ發ス
 ル者ハ起居言語等必ラス狐態ヲ為ス者ナリ故ニ
 傍人必ラス狐憑トナシテ之ヲ巫祝ニ託シ醫藥ヲ
 信セサル者多シ此時ハ狐憑ノ説ヲ辨駁シ巫祝ヲ
 却ケテ醫藥ヲ用ユルヲ專用トス
 城南鋒田村某ニ廢庫アリ傭夫數人ヲシテ之ヲ毀タ
 シムルニ蛇壁中ニ蟄スルト數十頭傭夫等之ヲ捕
 テ頭ヲ連子板上ニ載セ釘ヲ以テ住メ前川ニ投シ
 テ戯トス傍觀ノ一傭夫畏縮シテ失色家ニ歸ルニ
 及テ憎寒發熱譫言妄語見ル者皆蛇ニシテ之ヲ避

ント欲シ或ハ跳リ或ハ走リ狂躁シタル氏一醫生
ノ藥ヲ服スルヲ數日ニシテ愈ユ府下下金街一鐫
エノ妻誤テ猫兒ヲ踏殺シ追悼止マス卒然トシテ
癩ヲ發シ猫態ヲ為シタル一有リ是モ十餘日ニシ
テ愈ユ凡ソ狐狸猫蛇等ニ感シテ癩ヲ發スル者ハ
治シ易キ者ナリ

心氣病

心疾

心恙

心風

心氣ハ素問ニ心氣痿ト云ヒ金匱要略ニ心氣不足ト
有ルヲ鼻祖ト為ス左傳ニ心疾ト云フ唐宗ノ醫籍
ニ心風ト呼ビ或ハ心恙ト名ク是モ腦病ニシテ即
チ癩ノ變證ナリ故ニ初メ心氣ニシテ後ニ癩ニ變
スル者アリ又初メ癩ニシテ後ニ心氣ニ變スル者
アリ今醫俗共ニ姑ク氣病氣癖ト為シ或ハ癩證血

證ト為シテ正名ヲ云ハス癩ト心氣トノ區別ハ病人筋惕肉跳搐搦麻痺等ノ外部へ見ハル、者ヲ癩ト為ス心氣ハ惟七情ノ平生ニ異ナルノミニテ其證ノ外部へ見ハレサルヲ候ト為ス其因精神ノ虚耗ヨリ起リテ常ニ默默トシテ閑居獨處ヲ好ミ明窓ヲ避ケテ暗室ニ居リ憂フルニ足サルヲ憂ヒ悲ム可カラサルヲ悲ミ善ク驚キ喜テ恐レ既往ヲ悔ヒ未来ヲ慮リ惟沉思反覆スルノミニテ思フ所ヲ人ニ告ケス塵ホトノヲ山ホトニ思ヒ兔角ニ死ス氣ニナリテ百端感シ易ク凶事ヲ聞見スレ

ハ忽チ潜然トシテ淚ヲ流シ人ノ事ヲ自分ノ事ノヤウニ思ヒ長ク忘ル、ヲ能ハス稟賦强健ナレ氏自ラ虚脱ト為シ無病ナレ氏自ラ有病ト為シテ深ク之ヲ憂ヒ若シ眉一毛ニテモ脱スル片ハ癘風ト為シ或ハ風邪ニテ欬嗽シテモ勞ト思ヒ頤下ノ滬胞ヲ探リテ癰癤ナランヲ慮リ或ハ咽ヲ探リ會厭ニ觸レテ惡腫ト為シ男女氏ニ自ラ陰具ヲ熟視シ形色ノ人ニ異ナルヲ疑ヒ自ラ癰瘡ト為シテ醫藥ヲ乞フニ醫モ亦癰毒ニアラサルヲ知レ氏藥金ヲ貪テ姑ク療治スルニ素ヨリ資質ノヲナレ

ハ確乎トシテ變セス却テ藥ノ瞑眩ニテ諸證ヲ發
 スルユヘ愈癩毒ト為シテ苦心スル者アリ或ハ熱
 氣身體ヲ遊走シテ止マスト云ヒ或ハ蛇蜈蚣ノ類
 皮膚ノ間ニ蠕動スト云ヒ或ハ腹中非常ノ聲アリ
 ト云ヒ或ハ飲食スルキハ頭中ニ入テ腸胃ニ下ラ
 スト云者アリ門外ニ出ルヲ嫌テ踏青看花演劇
 歌舞等へ人ニ誘ハレテモ曾テ出テス遂ニハ人ニ
 逢フヲ嫌ヒ親族朋友ヲモ避ルニ至ル此證一夕
 ヒ床蓐ニ卧スニ及テモ胗シタル疥ニテハ何等ノ
 脈證モ無ク平生ニ異ナラス然レモ起ルヲ得ス

髮モ梳ラス面モ濯ハス爪モ剪ラス暑時蚊蠅ヲ張
 リ秋涼ニ及テ去ラントスレハ風ニ襲ハレテ再感
 スルト云テ四時蚊蠅ヲ去ルヲ能ハス床蓐ヲ掃除
 セントスレハ病ニ障ルト云テ少シモ掃ヲ能ハス
 總身黎黑ニナリ塵埃ノ中ニ卧シテ三四年或ハ六
 七年ニ至ル者アリ心氣ノ證候極メテ多端ニシテ
 枚舉ニ遑アラサレモ前項ニ舉ル所ニ就テ察スル
 片ハ幾多ノ奇證異候モ一心氣病タルヲ知ルニ
 足レリ

心氣病ハ固ヨリ心疾ノ一ナレハ藥ノ効ハ無キ者ナ

リ第一ニ權道ヲ以テ心氣ヲ一變スルヲ良策トス
 家ノ燒失シテ心氣ノ愈タル者アリ或ハ夫ヲ亡ナ
 ヒ或ハ子ヲ哭シテ自ラ愈タル者アリ仕宦ノ者ハ
 轉役シテ愈ルヲアレハ出キラヒノ者ヲハ勸メテ
 外へ出シ掛癖ノツキタル者ヲハ強テ起シムヘシ
 服藥ハ半夏瀉心湯加茯苓四七湯柴胡抑肝散巫神
 湯家試木香瀉心湯證ニ從ニ撰用スヘシ

心氣病應用方

四七湯局方 治心氣病輕者

茯苓 半夏 蘓葉 厚朴 陳皮 香附

甘草

右七味水煎服

家試木香瀉心湯

桂枝 七錢

芍藥 十錢

甘草 一錢

蒼朮 十錢

茯苓 十錢

乾薑 四錢

木香

黃連 各一錢

香附 十錢

右九味煎服或散服

半夏瀉心湯加茯苓 柴胡抑肝散 巫神湯

内科秘録卷之五

京都寺町通松原下町

勝村 治右衛門

大坂心齋橋通北久太郎町

河内屋 喜兵衛

同 安堂寺町

秋田屋 太右衛門

同 博勞町

河内屋 茂兵衛

同 南久寺町

伊丹屋 善兵衛

書物

尾州名古屋本町七丁目

永樂屋 東四郎

江戸日本橋通二丁目

須原屋 茂兵衛

同 淺草茅町三丁目

須原屋 伊八

同 日本橋通二丁目

山城屋 佐兵衛

同 芝神明前

岡田屋 嘉七

同 横山町三丁目

和泉屋 金石衛門板

三都

問屋

